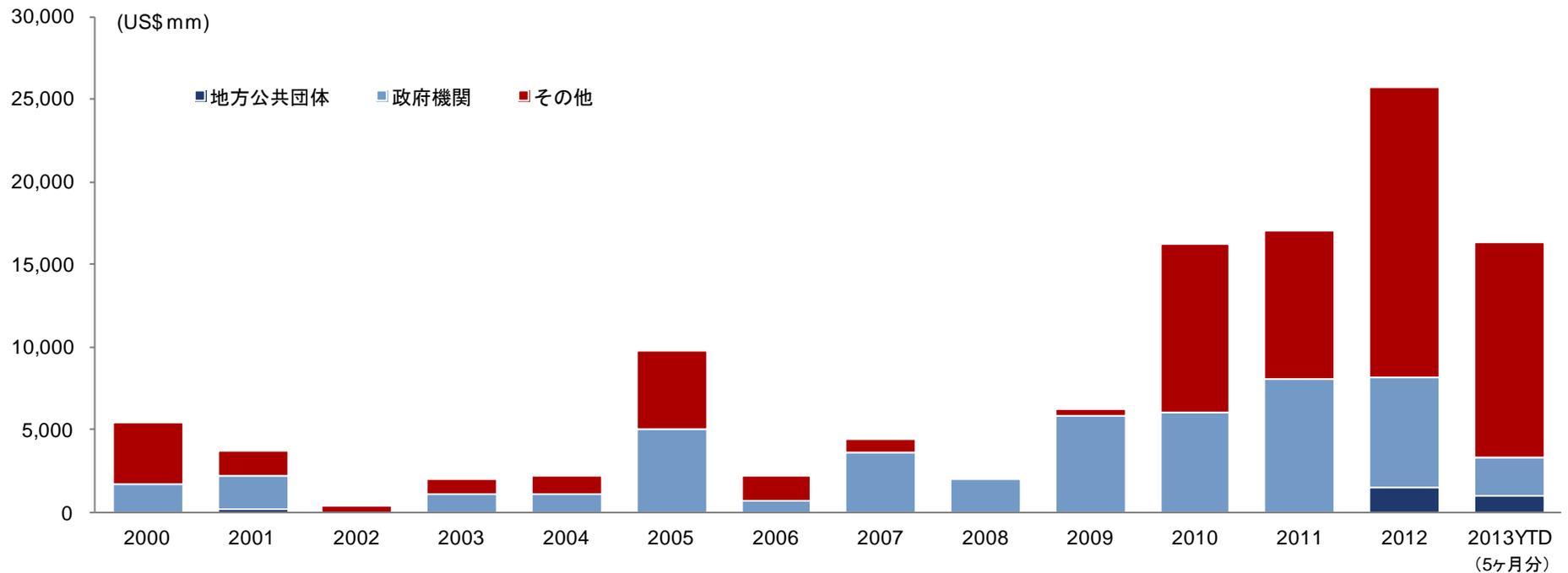


# 外債発行環境

## ■ 2010年以降、本邦発行体によるドル建て債発行が急増

本邦発行体によるドル建て債発行額推移(2000年1月～2013年5月)



### ■ 2010年以降のドル建て債発行体(US\$500mm以上)

- 公的機関: 東京都(政府保証なし)、地方公共団体金融機構(政府保証付/政府保証なし)、日本政策投資銀行(政府保証付)、国際協力銀行/日本政策金融公庫(政府保証付)
- 金融機関: 三菱東京UFJ銀行、みずほコーポレート銀行、三井住友銀行、野村ホールディングス、日本生命、第一生命、損保ジャパン、三井住友海上火災、三菱UFJリース、NTTファイナンス、オリックス
- 事業会社: ソフトバンク、武田薬品工業、NTT、三菱商事

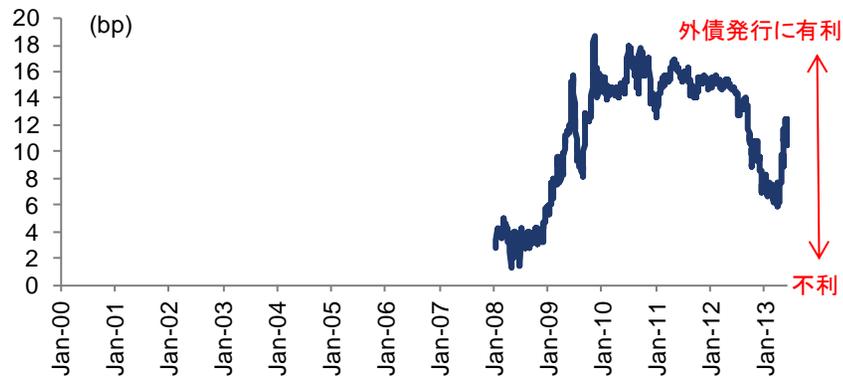
# 外債発行環境

- 2008年の世界金融危機、2010年の欧州危機などを経てドル円ベーススワップのマイナス幅が拡大
- これによりドル建て債を発行して円転した際のコストが有利な状況となり、本邦発行体によるドル建て債発行が増加

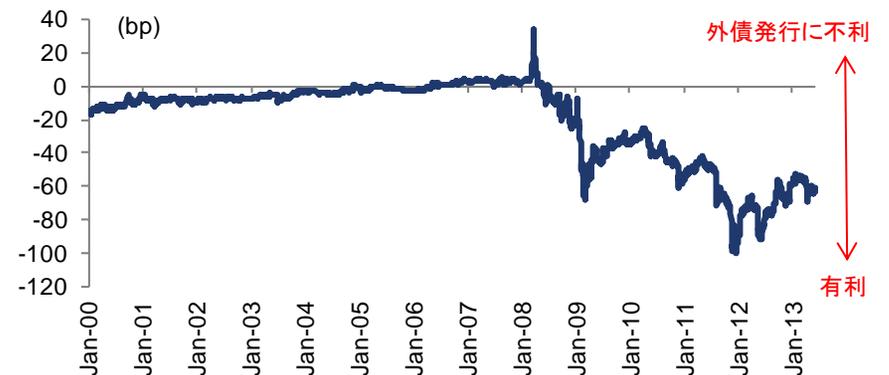
ドル建て債の発行コストに影響する要素

要素		外債発行コストへの影響
ドル建て債クレジットスプレッド (対スワップレート)	↓	↓
ドル円ベーススワップ	↓	↓
3ヶ月/6ヶ月 円Liborベースス・スプレッド	↑	↓
円スワップ・スプレッド	↓	↓

3ヶ月/6ヶ月円Liborベースス・スプレッド(5年)



ドル円ベースス・スワップ(5年)



円スワップ・スプレッド(5年)

